



補欠ゼロリーグは、キッズ年代（10歳以下）の子供たちに「年間を通して定期的に試合ができる環境」を提供するため、2004年にスタートした岩手県独自の取り組みです。  
才能を埋もれさせず、ひとりでも多くの子供たちがサッカーへの関心を持続してくれることを目的としています。

- 【主催】 (公社)岩手県サッカー協会
- 【主管】 (公社)岩手県サッカー協会 キッズ委員会 11地区
- 【運営】 地区キッズ担当者、参加団体指導者、JFAキッズリーダー、ご協力いただける父母の方々など
- 【対象】 少年団・クラブチーム・スクールに所属するキッズおよび準ずるキッズで、傷害保険に加入していること

【内容】 2002年にJリーグ・アカデミー（当時プロジェクトリーダー山下則之氏）が提唱した「補欠ゼロ」＝参加するすべての子供たちに均等に試合の機会を提供する」の考え方を基本として、参加団体の対抗戦ではなく、集まった子供たちをシャッフル混成チーム分け（補欠を作らず4～5人制）して、そのチームでその日限りのリーグ戦を戦い抜きます。

- ★試合には常にレギュラー選手としてフル出場
- ★混成するので団員1人での参加も大丈夫
- ★4～5人制でボールに関わるチャンスが多い
- ★混成チームの中でプレーすることで社会性を養う



盛岡地区 夏季の部 ダイジェスト



■ 幼児の部









■ 小1の部





■ 小2の部











## ■ 盛岡地区 夏季の部 活動結果

【参加団体】 緑が丘、仙北、アントス、青山、月が丘、松園、太田東、MIRUMAE、山岸、上田、盛岡中央  
グルージャ、雫石、羽場、手代森、厨川、イースト、玉山、OGASA、向中野、南公園カール、Grows、  
FC Aoba、県協会月が丘カール&エリート盛岡カール

【運営本部】 大久保和志（市協会キッズ委員長、月が丘）、石山信三（市協会キッズ委員、山岸）  
吉田隆一（事務局代行、山岸）、齊藤義光（市協会キッズ委員）、鎌澤和之（県協会キッズ）

【協 賛】 シライシパン （パン・和洋菓子の製造卸売業）



	開催日	カテゴリー	参加人数	会場
1	5月12日（土）	U-6、小1、小2	53名	いわぎんスタジアム
2	6月25日（土）	〃	104名	いわぎんスタジアム
3	7月 9日（土）	〃	157名	いわぎんスタジアム
4	7月30日（土）	〃	136名	いわぎんスタジアム
5	9月17日（土）	〃	168名	盛岡市綱網スポーツセンター
6	11月12日（土）	〃	141名	いわぎんスタジアム



### 担当者 コメント

今年度の「盛岡地区補欠ゼロリーグ・夏季の部」の全日程が終了しました。  
開催カテゴリーは昨年同様、U-6（幼児）、小1、小2でした。



内容としては、

U-6 および小1は、参加者全員を混成してチーム分けしました。同じ団体の子供たちができるべく別なチームに分かれるようにして、参加者全員と友達になり、全員がレギュラーで「補欠はゼロ」になるようにしました。

小2については、登録チーム対抗で試合をすることを基本とし、それ以外の少人数参加者は混成チーム化して組み込みました。小2も大会主旨を尊重して、全員が出場できるように全チームで意識統一しておこないました。

活動のようすとしては、

U-6 および小1は、春先は知らない子同士ということで遠慮気味でしたが、夏頃には「よっ」とお互いに気軽に挨拶をするようになりました。ゲームの最中も「勝とうな」とか「はい！はい！」とアピールをしてボールをもらうプレーも見受けられました。

小2は、登録チームと混成チームでリーグ編成して、「補欠ゼロ」を基本として全員出場できるように取り組みました。しかし、どうしても自分のチームで1チームを組むために小1も参加させているチームもあり、人数の多いチームは先発できない子がいましたので、チームをふたつに分けるなどの工夫もおこないました。

今年度も、各回終了後は子供たちに「白石パン」が配給されました。

中身にクリームが入っているメロンパン、長年愛されている表面に砂糖がまぶしてある「ネオトースト」サンドなど、子供たちには「大好評」で、パンをもらってからの「ありがとうございます」の挨拶は元気良くてとても気持ちの良い光景でした。

冬季も、各チーム、指導者、企業、父母の皆様のご協力を仰ぎながら、子供たちがサッカーを楽しむための環境造りを進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

盛岡地区キッズ担当責任者 大久保 和志

